

観光施設案内

原敬、石川啄木など盛岡にゆかりのある偉人たちの業績に触れ、城下町盛岡の変遷や伝統工芸を知ってみると、盛岡に息づく文化や生活の歴史が見えてきます。

各施設とも入館は閉館時間の30分前まで。祝休日や年末年始などの開館日についてはご確認ください。

もりおか歴史文化館 MAP E-4

📍 盛岡市内丸1-50
🕒 9:00~19:00 (11~3月は18:00まで)
📅 第3火曜日 📄 1階は無料/2階は有料
(一般300円、高校生200円、小中学生100円)
☎ 019-681-2100
🌐 <https://www.morireki.jp/>



高さ9mもある明治期の山車を見上げながら館内を進み、豊富な展示物と共に城下町盛岡の足跡をたどる。盛岡城の再現模型や南部家ゆかりの武器・古文書などが展示されており、盛岡市誕生までの流れも知ることができる。

盛岡市 先人記念館 盛南エリア

📍 盛岡市本宮字蛇屋敷2-2
🕒 9:00~17:00 📅 月曜日、最終火曜日
📄 一般300円、高校生200円、小中学生100円
☎ 019-659-3338
🌐 <http://www.mfca.jp/senjin/>



新渡戸稲造や米内光政、金田一京助を中心に盛岡ゆかりの先人が顕彰されている。近代化社会の礎となった人物、伝統工芸や文芸の分野で活躍した先人も紹介されており、盛岡が誇る偉人たちについて深く学ぶことができる。

原敬記念館 盛南エリア

📍 盛岡市本宮四丁目38-25
🕒 9:00~17:00
📅 月曜日
📄 一般200円、小中学生50円
☎ 019-636-1192
🌐 <http://www.mfca.jp/harakei/>



大正時代、平民宰相として活躍した原敬。83冊にも及ぶ原敬日記や政界の資料、遺品などの貴重な資料が展示されている。記念館には緑豊かな原敬の生家が隣接しており、4~10月の土・日・祝日には一般公開もされている。

岩手県立美術館 盛南エリア

📍 盛岡市本宮字松幅12-3
🕒 9:30~18:00 📅 月曜日
📄 コレクション展：一般450円、学生340円、
高校生以下は無料
☎ 019-658-1711
🌐 <http://www.ima.or.jp>



国内外の美術品を扱う企画展だけでなく、萬鐵五郎、松本竣介、舟越保武など岩手にゆかりのある美術家の作品も展示されている。実際に制作を楽しめるワークショップも開催されており、様々な楽しみ方が可能だ。

岩手県立博物館

📍 盛岡市上田字松屋敷34
🕒 9:30~16:30
📅 月曜日
📄 一般330円、学生150円、高校生以下は無料
☎ 019-661-2831
🌐 <http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>



岩手県の自然や歴史、民俗に至るまでの幅広い分野が、展示や映像を通して紹介されている。エントランスホールでは高さ約5mの毘沙門天立像(複製)と、マメンキサウスの大型復元全身骨格が来館者を出迎えている。

盛岡てがみ館 MAP E-4

📍 盛岡市中ノ橋通 1-1-10
プラザおでって6階
🕒 9:00~18:00 📅 第2火曜日
📄 一般200円、高校生100円
☎ 019-604-3302
🌐 <http://www.mfca.jp/tegami/>



石川啄木や宮沢賢治、金田一京助といった岩手ゆかりの先人たちがしたためた書簡などを展示している全国的にも珍しい施設。直筆の書簡や原稿をととして、先人たちの生きた知恵を学ぶことができる。

もりおか 啄木・賢治青春館 MAP E-5

📍 盛岡市中ノ橋通1-1-25
🕒 10:00~18:00 📅 第2火曜日
📄 無料(企画展は有料の場合あり)
☎ 019-604-8900
🌐 <http://www.odette.or.jp/seishunkan/>



盛岡と深く繋がりがある石川啄木と宮沢賢治の青春時代をパネルや映像で紹介している。明治時代の洋風建築であり重要文化財に指定された館内には喫茶店があり、ゆったりとした時間を過ごすことができる。

石川啄木記念館 休館中 令和6年度 開館予定

📍 盛岡市浜民字浜民9
🕒 9:00~17:00 📅 月曜日
📄 大人300円、高校生200円、
小中学生100円
☎ 019-683-2315
🌐 <http://www.mfca.jp/takuboku/>



歌人である石川啄木の人生を、直筆書簡や写真、歌集といった資料と共に紹介している。また敷地内には、啄木が代用教員を務めた旧浜民尋常小学校、生活していた旧齊藤家が移築・保存されている。

啄木新婚の家 MAP C-3

📍 盛岡市中央通3-17-18
🕒 9:00~17:00 (12~3月は10:00~16:00)
📅 火曜日 (12~3月は火・水・木曜日) 📄 無料
☎ 019-624-2193
🌐 <http://www.city.morioka.iwate.jp/shisetsu/kotsu/kanko/1006984.html>



新婚の石川啄木・節子夫婦が両親や妹と共に3週間ほど過ごした家であり、その新婚生活は随筆「我が四畳半」にも記されている。往時のしつらえのままの姿は、静かで落ち着いた雰囲気漂わせている。

もりおか 町家物語館 MAP E-6

📍 盛岡市鉈屋町10-8
🕒 9:00~19:00
📅 第4火曜日 📄 無料
☎ 019-654-2911
🌐 <http://machiya.iwate-arts.jp/>



江戸末期から明治・大正時代に建てられた酒蔵を改装した館内では、昔ながらの盛岡の様子や町家のつくりなどを展示しており、レトロな雰囲気を味わえる。大正蔵では、買い物も楽しめる。



Morioka Another Story



新しい盛岡が見える、7つのストーリー

もりおかアナザーストーリー

01. 武士のストーリー / 02. 神社仏閣ストーリー / 03. 文学のストーリー / 04. 盛岡のソウルフードストーリー
05. 手仕事ストーリー / 06. 雪の季節のストーリー / 07. 地酒ストーリー

“武士のストーリー” 「武士道」の源流、南部氏盛岡藩

01 < Story

MORIOKA ANOTHER STORY



5月25日に行われる櫻山神社の由緒祭では南部家当主を筆頭に武者行列が街をそして旧城内を巡る。

盛岡藩のサムライたち

わしが四代盛岡藩主南部重信じゃ。



1984年、五千円紙幣に盛岡の先人・新渡戸稲造が印刷された。日本の心を語る『BUSHI DO』を英語で執筆した、日本を代表する国際人だ。感銘を受けたアメリカ大統領ルーズベルトは30冊購入し友人らに配った。その後各国で翻訳されている。新渡戸家は300年以上南部氏に仕えてきた武士の家。いかなれば、『BUSHI DO』の源流は、南部氏盛岡藩なのだ。南部氏は、由緒ある戦国武将である。明治維新で盛岡藩は賊軍とみなされたが、大正

時代には、元家老の孫である原敬が、総理大臣として活躍するまでに名譽も回復。旧南部藩主戊辰殉職者五十年祭の席で、「戊辰戦役は、政見の異同のみ」と原は宣言した。その会場となった報恩寺は、戦争責任を負い、家老檜山佐渡が世を去った寺である。

花は咲く柳は萌ゆる春の夜に
うつらぬものは 武士の道

檜山佐渡辞世の歌

見えぬ道を武士道精神で切り開き、旧藩士たちはあらゆる分野に名を残した。現代の南部家当主は第46代利文氏。殿様として櫻山神社の由緒祭にも参加される。時代装束での市内、城内の行列は当時を旅する気分だ。

平民宰相
原敬!



新聞記者、天津領事、パリ代理公使、新聞社社長、銀行頭取など実力でさまざまな仕事についた原敬。
(P13 P14 原敬像 原敬記念館提供)



蒲生家の姫君が嫁いだ際に持ってきた兜。
(岩手県立博物館蔵)



黒田官兵衛の兜も盛岡にある。家臣栗山利安に与えたものが、黒田家のお家騒動の際、利安の子利章が盛岡藩に「お預け」となり、その後家臣となった子孫により南部家に献上された。レプリカは常時公開。実物の公開は期間限定。
(もりおか歴史文化館蔵)

トム・クルーズ
も読んだ。

『BUSHIDO』初版本。原書は英語である。献上した養父は檜山佐渡の親友であり、晩年は南部家家令を務めた。
(盛岡市先人記念館蔵)



「南部家歴代画像」より。甲冑は「黒羅紗地唐獅子牡丹文二枚胴具足」。ロックスターのステージ衣装になりそうな華やかさだ。ミュージアムグッズでも活用されている。もりおか歴史文化館では、収蔵する歴代藩主が着用した甲冑などを、入れ替えしながら展示している。
(もりおか歴史文化館蔵)

啄木が
石馬と呼んだ狛犬。



盛岡天満宮の狛犬

“神社仏閣ストーリー” 神社でのんびり、お寺でゆっくり

MORIOKA ANOTHER STORY

02 < Story

神社でお寺で ほっと一息

忙しい日常から、神社仏閣に足を延ばすと、ふっとやすらぐ時がある。清らかな空気と、鎮守の森など緑のエネルギーに癒やされる。盛岡随一の初詣スポットでもある盛岡八幡宮は、大きな森に包まれ、数々の社殿が並び、敷地内の店ではあんみつなどで一服できる。

まちなかにある神社といえは、櫻山神社である。かつて城内にあった神社で初代盛岡藩主らに祀っている。本殿の上手にある神秘的な烏帽子岩は、盛岡城の築城時に現れたといわれており、盛岡屈指のパワースポットといわれる。

「右手」の名前の由来が、三ツ石神社の、「もう悪さをしない」と巨岩に残した鬼の手形である



鬼の手形が残る三ツ石神社。



公園で遊んでいる子どもたちを見守るような十六羅漢。

あんだんごをお供えすると、望みを叶えてくれるらしい。

四ツ家の地蔵さん(田中地蔵尊)



多くの神社を参拝できる盛岡八幡宮。流鏝馬などの神事や、現代の名工の手による本殿も必見。



STORY NUMBER / 01 02 03 04 05 06 07



宮沢賢治『銀河鉄道の夜』の「天気輪の柱」のモデルともいわれる清養院の「天気塔」。



四方を囲む五百羅漢像は、京都で作られたもの。

“文学のストーリー” 啄木と賢治の青春時代

03 Story

MORIOKA ANOTHER STORY



賢治が通った盛岡高等農林学校が岩手大学農学部の前身。当時の本館は国の重要文化財で現在は農業教育資料館として公開されている。周辺の植物園には、啄木の妻節子の生家の井戸もある。

盛岡城跡公園は、文学と恋にめざめた石川啄木が、盛岡中学時代、授業を抜け出してつろいだ場所でもある。歌碑に刻まれた「不來方のお城の草に寝ころびて空に吸はれし十五の心」は、この頃の情景。27歳で夭折した啄木が残したものは一冊の詩集『あこがれ』、一冊の歌集『一握の砂』。死後発刊された歌集『悲しき玩具』。啄木は時代の歌うたいである。人間の感情は変わらないとみえ、現代の人の心にも共鳴し、いまでも読みつがれている。

ふたりをつなぐ盛岡

私の青春は、
恋と文学。

岩山山頂に「啄木望郷の丘」があり、ふるさとの山に向かい、木立ちのなかで佇む石川啄木に会える。

（P13啄木像 石川
啄木記念館提供）



STORY NUMBER / 01 02 03 04 05 06 07

眼閉けれど、
心にかぶ何もなし。
さびしくも、また、眼をあけるかな。
と、啄木の歌にインスパイアされ、歌手谷村新司さんの「昴」が誕生したのは有名。
盛岡中学の10歳年下の後輩に当たる宮沢賢治も啄木の歌に感化され、短歌から文学をスタートした。『春と修羅』『注文の多い料理店』など、多くの詩や童話も書き始めるが、生涯歌を詠んだ。玉山エリアの啄木歌碑建立の際も、寄附者に賢治の名が残っている。啄木がいたからこそ、宮沢賢治も誕生した。盛岡は思春期の彼らが過ごしたまち。まちなかに歌を投稿するボックスがあるので、ぜひ旅の記念に一首詠んでみてほしい。



玉山の洪民公園にある、募金を募って建てられた啄木第一号歌碑。啄木の教え子らが石を運んだ。

初恋を果たせた啄木だが、自分の結婚式には出席しなかった。それでも、新婚の啄木の日記に綴られる妻や子どもへの愛は、ストレートであたたかな気持ちになる。



新婚の家は
盛岡の貴重な
武家屋敷。

盛岡天満宮の狛犬は明治生まれ。啄木が歌や小説で石馬と呼んだ。盛岡でいちばん有名な狛犬。昔は地べたにいて子どもたちが乗って遊んでいたらしい。南部鉄器、文具、てぬぐいなどお土産品にもなっている。

私の青春は、
友情と文学。

材木町のいーはとーぶアベニューは、賢治の童話を出版した光原社のある通り。賢治の親友の下宿先が夕顔瀬あたりにありよく通ったという。ツケで辞書を買った書店もあり、通りには賢治とその作品をモチーフにした像が並んでいる。



“盛岡のソウルフードストーリー” つるり、ぺろり、盛岡三大麺

MORIOKA ANOTHER STORY



冬でも冷たい
冷麺を食べる。

盛岡で進化した
アジアな麺々

じゃじゃ麺は酢や
ラー油など、調味料で
味がぐんと変わる。



べつから
別辛で辛さを
調節するのよし。

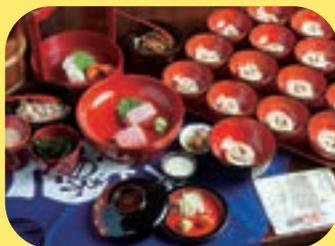


盛岡人は家庭での中華麺購入費日本一になったことがある程、実はかなりの麺好きだ。名物も盛岡じゃじゃ麺、盛岡冷麺、わんこそばの盛岡三大麺。わんこそばは、職場や地域のイベントで楽しむことが多い。添えられる薬味で味の変化も楽しみながら食すか、とにかく記録に挑戦するか、それぞれの楽しみ方がある。店によってお椀やマツチ棒などで杯数をカウントするスタイルがある。予約するのが確実だ。

中国東北部から帰国した店主が、ふるさとの味を盛岡の人たちの舌に合うよう改良して生まれた。それだけでもうまい牛骨ベースの澄んだスープに、好みにキムチを入れて食す。大根のキムチが多い。箸休めのフルーツを載せる店では、リンゴ、スイカが中心。初心者とはまどうこともあるが、癖になるおいしさである。お気に入りの店に、きつと通うことになるだろう。



盛岡手づくり村では、冷麺づくり体験ができる。これがまた絶品。



店によって違うがだいたい8~14杯くらいでかけそば1杯分といわれる。「全日本わんこそば選手権」は15分で競う。2018年は過去最高の632杯が記録された。



食後の皿で生たまごを軽くかきまぜて、ゆで汁を店員に注いでもらいうちーたんたんまで食するのが基本。

はいじゃんじゃん。

はいとんとん。

フタをしめるまで
エンドレスそば。

“手仕事ストーリー” 手仕事がつくる上質な暮らし

MORIOKA ANOTHER STORY



丁寧に焙煎された
至福のコーヒー。

人間の仕事の多くがロボット
にとって代わられる時代が来る
という。しかしそんな時代にな
るほど、手間暇かけた手仕事の
価値が高まっていく。南部杜氏
の酒はもちろん、多彩な野菜、
地元のはちみつ、お店で自家焙
煎したコーヒーのかぐわしさ、
お気に入りのものに囲まれる暮ら
しは、それだけで笑顔になれる。

盛岡は手仕事のまちだ。藩政
時代から伝わる漆黒の南部鉄器
は、平成になりカラフルな鉄器
も誕生し、海外でも大人気。岩
手は国産漆の主要生産地とい
う土地柄、シンブルな浄法寺塗と、
金箔で武田菱などを描く秀衡塗
も作られている。侍が着た南部
古代型染は、さまざまな紋様が

日々の暮らしが
豊かなまち



ヴァイオリン工房や和菓子
の老舗など手仕事の現場へ。
「小さな博物館」の認定工
房なら気軽に見学できる。
[詳しくはP26]

浄法寺塗りは、
ひたっど手のひらに
吸い付くような感触。



岩手の漆器には、秀衡塗
と浄法寺塗がある。盛岡
には現代の名工をはじめ、
優れた塗師がいる。

活かされたアイテムとなり、戊
辰戦争後一度途絶えた紫根染は
大正時代に復活した。防寒対策
に用いられたイギリス伝来の
ホームスパンは、いまや世界的
なファッションブランドに採用
されている。手作りの盛岡竿は
川のまち盛岡ならではの。ヴァイ
オリン工房からは盛岡の音が流
れてくる。職人たちの手仕事か
ら、ていねいな時間がにじみ出
て、暮らしに豊かさを添え
ている。

武士たちの装束のため
に始まった南部古代型染。
さまざまな紋様と色があり、
迷うのが楽しい。



明るい茜染め
も人気。



植物の根を使い、絞
りの技術で紋様を
描く紫根染と茜染。
宮沢賢治のユニーク
な短編「紫紺染のはな
し」も読んでほしい。

「いつかはホームスパン」と
いう憧れ。まずは帽子やマフ
ラーからスタート。強者は盛
岡でスーツもあつらえる。

実は、世界の
デザイナー御用達。



江戸時代に殿様
が釜師を盛岡に連
れてきたのが始まりと
いう南部鉄器。定番の
美しい黒から、カラフルな
ものもある。



雪を頂いた
“南部片富士”もまた
美しい

“雪の季節のストーリー” 盛岡だからこその冬景色

06

MORIOKA ANOTHER STORY



大陸から越冬に来るオオハクチョウ。高松の池の他、市内を流れる中津川、北上川でその姿を見ることができる。

美しい雪の世界

雪が降ると、盛岡のまちはそわそわしだす。雪ふりつも季節は、実は贅沢だ。だれも踏んでいない雪の美しさ。そこを歩く音を、宮沢賢治はかわいらしく描いた。「キック、キック、トントン。キック、キック、トントン。キック、キック、トントン」。童話「雪渡り」のなかで、子どもが凍った雪のなかを歩く音だ。雪が足の重みにきしむのだ。空を飛ぶ白鳥の鳴き声も、星がまたたく音も、透明な空気のなかでさらさらと響く。キーンと夜が冴える時間、ミトンの指先に雪をすくうと、雪の結晶が見える。

寒い外を味わったあと、室内でぬくぬくと暖まるのは至福の時間。居酒屋でほっこり熱燗、バーのカウンターで雪を愛でつつホットカクテルもいい。地元のはちみつをお湯でといただけでもにんまりする。本好きの盛岡人らしく、積んでいた小説に手を伸ばすもよし、ストーブにかけた南部鉄器が湯を沸かすシュンシュンという音を音楽に、深い夜を満喫する。冬の時間には、雪

国の人間だけが知る小さなしあわせがまっている。

岩手山の平年の初冠雪は10月上旬。街には11月に一度うっすら雪が降る。



お城の雪景色は幻想的。

葉の落ちた木がとびきり美しくなる真冬の盛岡。晴れた日の雪はとても気持ちがよいもの。防寒してお散歩を。

冬は、スキー、スケート、岩洞湖。

真冬の楽しみは岩洞湖のワカサギ釣り。分厚い氷に穴を開けて釣る。ご近所さんからお裾分けが届くことも。



STORY NUMBER / 01 02 03 04 05 06 07

“地酒ストーリー” もりおか人の酒ライフ

07 Story

MORIOKA ANOTHER STORY



盛岡でつくられる酒は実に多彩。まずは地酒。手づくり工程と近代工程の両方が見学できるあさ開、昭和生まれの酒蔵・桜顔、そして震災で沿岸大槌町から引っ越してきた赤武と三銘柄



呑む幸福、酔う幸福

酒を買いに来て酒樽を返さない客を殴ったら、お地蔵さまだった！という材木町の酒買地蔵伝説は、お客様を大事にすることを教訓に残した。そんな盛岡には、「はしご酒」「カクテルパーティー」「蔵元の酒を飲む会」など酒イベントも多く市民を楽しませている。

4～11月の毎週土曜日のよ市では、ペアレンビールが飲める。

100年前の製法でつくっている地ビール。

が並ぶ。それぞれの蔵で焼酎やリキュールなども製造している。また、いまはなき岩手川酒造の建物は「もりおか町家物語館」として活用されている。ワインもある。五枚橋ワイナリーの五枚橋林檎ワインや季節限定の盛岡シードルは盛岡ならではの味わい。そして、日本一にもなったクラフトビールの雄、ペアレン。バレンタイン時期のチョコレートスタウトや、夏の柑橘系ラードラーなど季節ものも旨い。材木町よ市で地酒を楽しむ人も増えている。そしてバーでカクテルをいただくのも極上の時間。盛岡は東北屈指のバーテンダーが多い街。雰囲気、温度、酒器、いい店がベストに整えた酒は、とにかく旨い。プロのもてなしと旨い酒があれば、ひとりでも仲間とでも、盛岡の夜はさらに至福のひとつとなる。



ペアレンのりんごの果実酒・ドライサイダーも新定番。秋から、三回に分けて異なるりんごで作られラベルも変わる。



各酒蔵で、伝統的手法、近代的な手法で個性ある地酒をつくっている。昭和旭蔵(あさ開)では工場見学もできる。

ふじ、王林...
りんごの違いも楽しめる。



五枚橋ワイナリーの五枚橋林檎ワインと盛岡シードル。りんごの品種別に飲み比べるのも楽しい。



盛岡りんごハイボール
盛岡ブランドの完熟りんごジュースを使ったハイボール。



新酒が出たら
付け替える杉玉。



日本三大杜氏・南部杜氏が仕込む地酒は、蔵それぞれの個性が味わえる。



カクテルINAZO

『るるろに剣心』『3月のライオン』を代表作とする盛岡市出身の映画監督、大友啓史氏が名付け親。日本バーテンダー協会盛岡支部のもりおか街カクテル。



飲めるお店
は協会所属
のこのお店



飲めるお店
は盛岡市内
のこのお店

STORY NUMBER / 01 02 03 04 05 06 07